

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	DPD441H 卒業研究A			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	渡壁 守正, 平田 圭子, 平田 欽也, 杉田 洋, 河内 浩志, 宋 城基, 前田 圭介, 河田 智成, 杉田 宗, 萬屋 博喜, 光井 周平, 森田 秀樹, 建デ未定 1, 建デ未定 2						
研究室	N3-220	メールアドレス	m.watakabe.ns@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 卒業研究は、これまでに学んできた建築デザインの知識と技術を集大成する。各人の問題提起に即して現代における意義に照らし合わせて研究テーマを決定し、自主的に実験・調査・研究・設計を行い、その成果を表現することで、専門的に思考する力、全体を総合する力、社会に発信する力を身に付ける。本科目は、各人の問いの所在を尋ねながら、解決すべきテーマを設定し、専門的な方法により論理を組立て、成果を論文・設計としてまとめて、卒業研究発表会において発表する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(2) 数学、物理及び自然科学などの基礎的な教養知識を幅広く身に付け、建築学の学問体系及び各領域の基礎・基本を理解することができる。
DP2(思考・判断) D(3) 建築デザインを実践するにあたり、自然環境・都市環境との持続的共生を基本とし、理性的かつ論理的に思考し、判断することができる。

〔履修条件〕 3年後期終了時までに必要な単位数(104単位)を取得しておくこと

〔キーワード〕 卒業研究 論文 設計 プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 最終発表会に至るまでの中間発表などのプロセスを踏むこと
各ゼミ教員の指示に従って進めること

〔授業計画〕

〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
卒業研究担当教員による	杉田 洋, 遠藤 吉生, 河田 智成, 平田 欽也, 光井 周平, 河内 浩志, 杉田 宗, 宋 城基, 天満 頼子, 平田 圭子, 渡壁 守正	0分 卒業研究担当教員の指示による 事前:総時間 10.0時間	0分 卒業研究担当教員の指示による 事後:総時間 14.0時間

〔到達目標, 比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(2)	解決すべきテーマを設定し、専門的な方法により論理を組立て、成果を論文・設計としてまとめることができる	50%
D(3)	成果を論文・設計をプレゼンテーション能力をもって他者に伝えることができる	50%

〔評価種別, 比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
発表	100%

〔評価及び評価基準〕 @:卒業研究にかかわる内容のすべてを理解し、説明・表現できる。
A:卒業研究にかかわる内容の大部分を理解し、説明・表現できる。
B:卒業研究にかかわる内容の一部を理解し、説明・表現できる。
C:卒業研究にかかわる内容を理解し、説明・表現できる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕

〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
各ゼミ教員の指示による				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕

〔手法〕	〔実施授業回等〕
Problem-Based Learning	研究テーマによる
Project-Based Learning	研究テーマによる
実習、フィールドワーク	研究テーマによる

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	DPD442H 卒業研究B			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	渡壁 守正, 平田 圭子, 平田 欽也, 杉田 洋, 河内 浩志, 宋 城基, 前田 圭介, 河田 智成, 杉田 宗, 萬屋 博喜, 光井 周平, 森田 秀樹, 建デ未定 1, 建デ未定 2						
研究室	N3-220	メールアドレス	m.watakabe.ns@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 卒業研究は、これまでに学んできた建築デザインの知識と技術を集大成する。各人の問題提起に即して現代における意義に照らし合わせて研究テーマを決定し、自主的に実験・調査・研究・設計を行い、その成果を表現することで、専門的に思考する力、全体を総合する力、社会に発信する力を身に付ける。本科目は、各人の問いの所在を尋ねながら、解決すべきテーマを設定し、専門的な方法により論理を組立て、成果を論文・設計としてまとめて、卒業研究発表会において発表する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(2) 数学、物理及び自然科学などの基礎的な教養知識を幅広く身に付け、建築学の学問体系及び各領域の基礎・基本を理解することができる。
DP2(思考・判断) D(3) 建築デザインを実践するにあたり、自然環境・都市環境との持続的共生を基本とし、理性的かつ論理的に思考し、判断することができる。

〔履修条件〕 本科目は「卒業研究A」の履修が基本となる。

〔キーワード〕 卒業研究 論文 設計 プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 最終発表会に至るまでの中間発表などのプロセスを踏むこと
各ゼミ教員の指示に従って進めること

〔授業計画〕

〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
卒業研究担当教員による	杉田 洋, 遠藤 吉生, 河田 智成, 平田 欽也, 光井 周平, 河内 浩志, 杉田 宗, 宋 城基, 天満 頼子, 平田 圭子, 渡壁 守正	0分 卒業研究担当教員の指示による 事前:総時間 10.0時間	0分 卒業研究担当教員の指示による 事後:総時間 14.0時間

〔到達目標, 比率〕

[DP]	[到達目標]	[比率]
D(2)	解決すべきテーマを設定し、専門的な方法により論理を組立て、成果を論文・設計としてまとめることができる。	50%
D(3)	成果を論文・設計をプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。	50%

〔評価種別, 比率〕

[評価種別]	[比率]
発表	100%

〔評価及び評価基準〕 @:卒業研究にかかわる内容のすべてを理解し、説明・表現できる。
A:卒業研究にかかわる内容の大部分を理解し、説明・表現できる。
B:卒業研究にかかわる内容の一部を理解し、説明・表現できる。
C:卒業研究にかかわる内容の一部を理解し、説明・表現できる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕

[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]
各ゼミ教員の指示による				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕

[手法]	[実施授業回等]
Problem-Based Learning	研究テーマによる
Project-Based Learning	研究テーマによる
実習、フィールドワーク	研究テーマによる

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基礎	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSC242H 建築キャリアデザインB			履修区分	必修	単位数	1
担当者名	渡壁 守正, 平田 欽也, 宋 城基, 清水 貴史, 杉田 宗, 光井 周平						
研究室	N3-220	メールアドレス	m.watakabe.ns@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 本科目では、技術的な領域別に分割され学習されてきた専門諸学の知識を実践的視点から修得することを目指す。さらに、国家資格の内容に向けての演習も視野に入れている。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(1) 人々の心豊かな暮らしに対する幅広い教養と工学的知識を共に深め、この教養と知識をもって実践的な技術としての建築デザインを理解することができる。

〔履修条件〕 技術分野の専門諸学を基礎としており、その修得内容を再確認し、応用すること。

〔キーワード〕 建築計画、建築環境工学・建築設備、建築構造、建築施工

〔履修上の留意事項〕 ノートPCを持参する。
指定のURLから資料を入手する。
関連資料を配付するので各自ファイリングすること。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	受講ガイダンス	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第2回	建築計画の問題と解説1	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第3回	建築計画の問題と解説2	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第4回	建築計画の問題と解説3	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第5回	建築環境工学・建築設備の問題と解説1	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第6回	建築環境工学・建築設備の問題と解説2	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第7回	建築環境工学・建築設備の問題と解説3	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第8回	建築構造の問題と解説1	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第9回	建築構造の問題と解説2	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第10回	建築構造の問題と解説3	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第11回	建築施工の問題と解説1	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第12回	建築施工の問題と解説2	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第13回	建築施工の問題と解説3	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。
第14回	総合問題演習	未定	100分 教科書の指定箇所を熟読しておくとともに、専門用語などを調べておく。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習をしておく。

〔到達目標, 比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(1) 工学的知識を深め、この知識をもって実践的な技術としての建築デザインを理解することができる。 100%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
小テスト 100%

〔評価及び評価基準〕 @:課題にきわめて熱心に取り組み、きわめて優秀な成果をおさめている。
A:課題に熱心に取り組み、優秀な成果をおさめている。
B:課題に熱心に取り組み、十分な成果をおさめている。
C:課題に取り組み、一定の成果をおさめている。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
プリント配布

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
eラーニング 12回

〔授業改善点など〕 理解度を深めるため、授業の初めに解説するよう工夫する。

〔関連する資格〕 建築士試験受験資格(必修)

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	FSC243S 建築キャリアデザインC			履修区分	選択	単位数	1
担当者名	平田 欽也,神垣 聡志						
研究室	N3-214	メールアドレス	k.hirata.xi@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

- 〔授業の目的〕 本科目では、技術的な領域別に分割され学習されてきた専門諸学の知識を用いて実践的に建築物を計画し、設計する知識及び技能の修得を目的とする。さらに、国家資格の設計に向けた知識及び技能の修得も視野に入れている。
- 〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP3(技能・表現) D(6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。
 DP4(関心・意欲・態度) D(8) 技術者としての高い倫理観と責任観をもって行動でき、課題解決に向けた取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。
- 〔履修条件〕 技術分野の専門諸学を基礎としており、その修得内容を再確認すること。
- 〔キーワード〕 空間構成、建築計画、構造計画、設備計画、建築構造、建築施工
- 〔履修上の留意事項〕 指定のURLから資料を入手する。関連資料を配付するので各自ファイリングすること。単位取得には、全出席が基本である。
- 〔授業計画〕
- | 回数 | 内容 | 担当教員 | 事前学習 | 事後学習 |
|-----|---|------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス
設計条件の読み解き方
空間構成・建築計画・構造計画・設備計画の解説 | 平田欽也 | 100分 指定のURLから関連資料を入手し、熟読し予習しておく。 | 100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習しておく。 |
| 第2回 | 第1課題 出題
エスキース | 平田欽也 | 100分 第1課題の関連資料を指定のURLから入手し、熟読し予習しておく。 | 100分 第1課題のドローイング。 |
| 第3回 | 第1課題 自己分析
設計図が設計条件に適合しているか確認する | 平田欽也 | 100分 第1課題のドローイング。 | 100分 第1課題の修正。 |
| 第4回 | 第2課題 出題
エスキース | 平田欽也 | 100分 第2課題の関連資料を指定のURLから入手し、熟読し予習しておく。 | 100分 第2課題のドローイング。 |
| 第5回 | 第2課題 自己分析
設計図が設計条件に適合しているか確認する | 平田欽也 | 100分 第2課題のドローイング。 | 100分 第2課題の修正。 |
| 第6回 | 第3課題 出題
エスキース | 平田欽也 | 100分 第3課題の関連資料を指定のURLから入手し、熟読し予習しておく。 | 100分 第3課題のドローイング。 |
| 第7回 | 第3課題 自己分析
設計図が設計条件に適合しているか確認する | 平田欽也 | 100分 第3課題のドローイング。 | 100分 第3課題の修正。 |
- 〔到達目標,比率〕
- | 到達目標 | 比率 |
|---|-----|
| [DP] D(6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。 | 80% |
| D(8) 技術者としての高い倫理観と責任観をもって行動でき、課題解決に向けた取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。 | 20% |
- 〔評価種別,比率〕
- | 評価種別 | 比率 |
|------|------|
| 課題 | 100% |
- 〔評価及び評価基準〕
 @:課題にきわめて熱心に取り組む、きわめて優秀な成果をおさめている。
 A:課題に熱心に取り組む、優秀な成果をおさめている。
 B:課題に熱心に取り組む、十分な成果をおさめている。
 C:課題に取り組む、一定の成果をおさめている。
 D:未到達(不合格)
- 〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕
- 〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。
- 〔教科書〕
- | タイトル | 著者名 | 発行所 | 出版年 | ISBN |
|--------|-----|-----|-----|------|
| プリント配布 | | | | |
- 〔参考書〕
- 〔能動的学習の授業手法〕
- | 手法 | 実施授業回等 |
|-----|--------|
| その他 | 1~7回 |
- 〔授業改善点など〕 理解度を深めるため、授業の初めに解説するよう工夫する。
- 〔関連する資格〕 建築士試験受験資格(選択)
- 〔備考〕
- 〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSM241S 知的所有権			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	土取 功						
研究室	23-305	メールアドレス	i.tsuchitori.p5@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 特許等に代表される知的所有権(以下「知的財産権」)は、経済のグローバル化の進展と知識型社会への移行に伴って、その重要性は益々、高まっている。国の政策も知的財産権は経済成長の原動力という認識のもとに、その権利取得に向けた様々な振興奨励策が打ち出されている。本科目は、技術開発や製品開発等を行った際の成果を知的財産として保護し活用するための処方を学ぶもので、将来遭遇する「知的財産権」に関する課題に対処ができるようになる。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP4(関心・意欲・態度) D(8) 技術者としての高い倫理観と責任感をもって行動でき、課題解決に向けた取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。
 DP1(知識・理解) D(2) 数学、物理及び自然科学などの基礎的な教養知識を幅広く身に付け、建築学の学問体系及び各領域の基礎・基本を理解することができる。
 DP3(技能・表現) D(5) 豊かな居住環境の構想を多様な手段によって表現し、それにより自分の考えを相手に明確に伝えることができる。

〔履修条件〕 無し

〔キーワード〕 特許, 実用新案, 商標, 意匠, 著作権, 不正競争防止法, 種苗法

〔履修上の留意事項〕 知的所有権については、それらが活用された商品・製品が身の回りには多くあり、自ら興味を持って知識習得することが大切である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	知的財産権の特徴と保護の必要性 知的財産法の体系及び全体概要	土取 功	100分 教科書「知的財産権」の1.に目を通し、知的財産とはどういうもので、なぜ保護するのかを調べておく。	100分 知的財産基本法の内容と特徴、そして知的財産法の全体の体系及び個別の知的財産法の概要を把握・理解する。
第2回	特許制度の目的と保護対象 特許を取得するための要件	土取 功	100分 教科書の2.を熟読し、特許とは何か、特許制度の概要を理解し、空欄部分を調べ、考えてみる。	100分 特許制度の保護対象、登録要件、新規性喪失の例外規定等を習得し、参考書にも目を通して重要事項を理解する。
第3回	発明の種類 特許を受ける権利 職務発明制度	土取 功	100分 教科書の3.に目を通し、発明にはどのようなものがあって、誰が権利を持ち、組織の中での発明はどうなるのか概要を把握する。	100分 発明の種類と特許庁の認識、特許の権利者等を理解し、現行の職務発明制度を習得する。参考書にも目を通しておく。
第4回	特許出願, 出願公開, 審査請求 方式・実体審査への対応 査定に対する対応 特許権の維持・消滅と利用方法	土取 功	100分 教科書の4.と5.及び参考書の関係部分を熟読し、必要書類、手続き、出願方法等を把握し、審査・査定等への対応の特許出願の手続フローとともに理解する。	100分 国内優先権制度、出願公開制度等を理解し、審査結果、査定結果に対する対応の要点を理解する。特に拒絶査定に対する対応等や、他人の特許を阻止する方法も理解しておく。
第5回	特許請求の範囲・明細書等とその書き方	土取 功	100分 教科書4.-6の特許請求の範囲と7の明細書を熟読し、前者の重要性を認識するとともに書き方や注意点等を事前に把握しておく。	100分 特許請求の範囲をどのように書けば広い権利が表現できるか、また、技術の思想化とはどういうことなのか、を習得する。
第6回	特許権の効力 特許の技術的範囲 特許権の効力の例外	土取 功	100分 教科書の6.を熟読し、特許権の効力、技術的範囲、効力の制限について概略を把握する。	100分 特許権の技術的範囲の問題を理解し、均等論や特許権の個別的制限の要点を習得する。
第7回	特許権の侵害と救済, 審判, 罰則 外国への出願	土取 功	100分 教科書の7.に目を通し、特許権の侵害とその救済(対処)、外国へ特許出願する場合の概要を把握する。	100分 特許の直接・間接侵害と救済、審判、罰則等を把握し、外国出願の2つの方法、手順や内容等を習得する。
第8回	実用新案制度 意匠制度	土取 功	100分 教科書の8.と9.に目を通し、実用新案制度の概要、意匠制度の内容や特徴等を把握する。	100分 実用新案制度の特徴、活用方法を把握しておく。また、意匠の保護対象、登録要件、特殊な意匠登録、外国への出願方法等を理解し、意匠権の特殊性や効果的な使い方を理解する。
第9回	商標制度	土取 功	100分 教科書の10.の商標制度に目を通し、商標の種類、構成、登録要件等の概要を理解し、特殊な商標や地域団体商標、外国出願方法等の概略を把握する。	100分 商標制度の要点、経済的機能等を理解し、各種商標の効果的な使い方と類似性等についても理解する。
第10回	産業財産権情報の調査と利用	土取 功	100分 教科書の11.と参考書の関係項目に目を通し、産業財産権情報としてどのようなものがあり、その調べ方の概略を把握する。	100分 卒業研究や興味ある技術の特許、企業の取得特許等についてJ-PlatPatで検索調査を行い、レポート提出する。
第11回	著作権	土取 功	100分 教科書の12.に目を通し、著作権法の目的、著作物とは何か、著作権の体系と権利の種類等を把握し、技術とも無関係ではないことを認識する。	100分 著作権の個別権利、関係する部分等を理解し、著作権が活用されている事例を参考にしながら、その権利も拡張傾向にあることを認識する。
第12回	不正競争防止法 種苗法(育成者権)	土取 功	100分 教科書の13.に目を通し、不正競争防止法と種苗法の概略を把握する。空欄部分を参考書で調べてみる。	100分 不正競争防止法は身近な問題等に関係していることを認識し、各不正行為の内容を理解する。種苗法はその主旨、品種登録の要件等を理解する。
第13回	知的財産権のまとめ(事例演習)	土取 功	100分 これまで学習してきた知的財産権のそれぞれについて、保護対象、登録要件他の特徴等を整理、確認しておく。	100分 事例演習した結果を復習・整理し、まとめておく。

[到達目標, 比率]	[DP]	[到達目標]				[比率]
	D(2)	知的財産権の主旨や全体概要(体系)を説明できる。				40%
	D(5)	知的財産権の取得に向けた書類の作成ができる。				40%
	D(8)	知的財産権の取得まで、特許庁等からの通知、査定等に対応できる。				20%
[評価種別, 比率]	[評価種別]					[比率]
	授業への積極性					20%
	期末試験					80%
[評価及び評価基準]	@:知的財産権の全体について理解し、利活用できるレベルにまで習得している。 A:知的財産権の大部分の内容について要点を理解し、説明できる。 B:知的財産権の主要部分の内容について説明できる。 C:知的財産権の一部の内容について説明できる。 D:未到達(不合格)					
[課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法]						
[科目GPA及び評価分布]	この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。					
[教科書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権		自作			
[参考書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権制度入門		特許庁			
[能動的学習の授業手法]	[手法]	[実施授業回等]				
	ミニッツ・ペーパー グループワーク 質問法	4回程度実施する。 第13回の期末まとめのときに実施する。 授業の中で随時、実施する。				
[授業改善点など]	授業アンケートで板書した文字の中に分かりにくい字がある。 【改善点】漢字ではないかと思われるが、注意して板書するように努める。					
[関連する資格]						
[備考]						
[参考URL]						

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSM243H 技術者倫理			履修区分	必修	単位数	1
担当者名	森田 秀樹						
研究室	メールアドレス						
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

- 〔授業の目的〕 近年、技術に関わる不祥事や事件が頻繁に起こり、人間の生命と安全を脅かしている。このようなことから、技術者倫理教育の必要性が叫ばれ、技術者に倫理的な判断・思考が求められている。この科目は、倫理観を持つ技術者を育成することを目的とする。
- 〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP4(関心・意欲・態度) D(8) 技術者としての高い倫理観と責任観をもって行動でき、課題解決に向けた取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。
- 〔履修条件〕 この科目では、1年前期科目「社会・環境・倫理」で培ってきた基礎的素養を行動に向けていく視点が大切である。
- 〔キーワード〕 倫理 道徳 安全 責任
- 〔履修上の留意事項〕 日ごろから技術と倫理に関係する記事や文献などに注意を払っておくこと。
授業ノートを作成すること。
単位取得には、全出席が基本である。
- 〔授業計画〕
- | 〔内容〕 | 〔担当教員〕 | 〔事前学習〕 | 〔事後学習〕 |
|-------------------------|--------|----------------------------|------------------------------------|
| 第1回 受講ガイダンス・学ぶ意義 | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第2回 技術者倫理の概要 | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第3回 システムの倫理 | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第4回 説明責任 | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第5回 ヒューマンエラー | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第6回 事故事例
住宅建築のトラブル事例 | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
| 第7回 まとめ | 番匠谷薫 | 100分 プリントと教科書の該当箇所を予習しておく。 | 100分 授業内容についてレポートなどに要約して十分に復習しておく。 |
- 〔到達目標, 比率〕
- | | | |
|-----------|---|-----------|
| 〔DP〕 D(8) | 〔到達目標〕 技術者としての高い倫理観と責任観を持った行動ができ、種々の問題解決において、その取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。 | 〔比率〕 100% |
|-----------|---|-----------|
- 〔評価種別, 比率〕
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 〔評価種別〕 小論文
レポート | 〔比率〕 60%
40% |
|--------------------|-----------------|
- 〔評価及び評価基準〕
- ①: 自立した技術者がもつべき姿勢と資質について非常によく理解し、技術的問題に対処すべき倫理観について十分に考えをもって表現することができる。
A: 自立した技術者がもつべき姿勢と資質についてかなりよく理解し、技術的問題に対処すべき倫理観について考えをもって表現することができる。
B: 自立した技術者がもつべき姿勢と資質についてだいたい理解し、技術的問題に対処すべき倫理観について考えをもって表現することができる。
C: 自立した技術者がもつべき姿勢と資質について一部を理解し、技術的問題に対処すべき倫理観について許容できる程度に表現することができる。
D: 未到達(不合格)
- 〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕
- 〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。
- 〔教科書〕
- | 〔タイトル〕 | 〔著者名〕 | 〔発行所〕 | 〔出版年〕 | 〔ISBN〕 |
|-------------|-------|-------|-------|--------|
| 授業内でプリントを配布 | | | | |
- 〔参考書〕
- 〔能動的学習の授業手法〕
- | | |
|----------------|-------------|
| 〔手法〕 ミニッツ・ペーパー | 〔実施授業回等〕 毎回 |
|----------------|-------------|
- 〔授業改善点など〕 とくに無し
- 〔関連する資格〕
- 〔備考〕
- 〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	木工・インテリア	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	IDI241S 木質計画			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	森田 秀樹						
研究室	メールアドレス						
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 木材および木材から生産される木質材料は建築物の生産における代表的な材料として知られているが、家具や様々なインテリア材料、さらに日々の生活用品に至るまで我々の生活に密着しているとともに、地球上で持続的に循環できる資源である。本講義は木質材料の特性、構造、加工方法から具体的に設計し制作できるまでの、プロセスを習得する。この講義を通して木質材料を中心に据えた自然環境・都市環境との持続的共生を理解し、生活環境から地球環境を視野に捉えた。理性的かつ論理的な考え方や判断力を身につける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP4(関心・意欲・態度) D(7) 生活のあらゆることに関心を持ち、種々の課題に対して創造的な解決を導き出すため、自主的、継続的、計画的に行動できる。
 DP2(思考・判断) D(3) 建築デザインを実践するにあたり、自然環境・都市環境との持続的共生を基本とし、理性的かつ論理的に思考し、判断することができる。
 DP3(技能・表現) D(6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。

〔履修条件〕 本講義の履修を助けるため、初年次より開講されている木材加工に関する様々な講義、実習に積極的に取り組んでおくこと。さらに建築や家具の歴史、作品などにも関心が高いことは有利なことである。木質製品や家具などをスケッチする予習課題があるので、スケッチ手法についても興味を持っておくこと。

〔キーワード〕 木質材料、木材加工、家具、インテリア、生活用品、仕様・積算、和室造作、木製階段、木材塗装・仕上げ

〔履修上の留意事項〕 様々資料の提供を行うので、講義資料管理を確実に行うことが重要である。建築や家具のデザイン、歴史、作品に関心を持っておくことが重要である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	講義ガイダンス 生活空間における木質化の目的 地球環境と木材	番匠谷 薫	100分 身近にある木質材料を調査し、興味のある分野を明らかにする。	100分 資料を熟読し、ノートにまとめて理解する。
第2回	木材と木質材料(1) 無垢の木材、木質材料の特性	番匠谷 薫	100分 3年生までに習得した木材、木質材料の材料特性、力学的特性を復習しておく。	100分 木材、木質材料について第2回講義の講義ノートを熟読し、新しく得られた特性を理解する。
第3回	木材と木質材料(2) 各種パネルとその用途	番匠谷 薫	100分 建築分野で使用されている木質パネルと家具分野で使用されている木質パネルの違いを予想する。	100分 各種木質パネルについて第3回講義の講義ノートを熟読し、新しく得られた特性を理解する。
第4回	家具の構造(1) 箱、板部材で構成される家具の構造と接合	番匠谷 薫	100分 わが国および海外も含めて有名なデザイナーが手がけた家具の特徴をまとめる。家具をスケッチする。	100分 箱、板部材で構成される家具の構造について資料を基に分類し、理解を深める。
第5回	家具の構造(2) 棒状部材で構成される家具の構造と接合	番匠谷 薫・部外講師	100分 わが国および海外も含めて有名なデザイナーが手がけた椅子の特徴をまとめる。椅子をスケッチする。	100分 棒状部材で構成される家具の構造について資料を基に分類し、理解を深める。
第6回	木質材料の加工(1) 木取り計画 木材加工用機械の概要 安全作業	番匠谷 薫	100分 木質製品の簡単な図面の製作図を理解し、生産計画を立案する。	100分 部材を生産する際の木取りの留意点、安全作業について講義ノートを確認し、理解する。
第7回	木質材料の加工(2) 木材加工計画 仕上げ加工方法	番匠谷 薫	100分 木取り計画および木工機械の安全作業について配布資料を復習する。	100分 木質製品の各種仕上げ方法について講義資料からその特徴について理解する。
第8回	木質材料の加工(3) 塗装仕上げ方法	番匠谷 薫・部外講師	100分 木質製品の塗装について、各種資料を収集するとともにホームセンターなどで販売されている塗料の特徴を調べておく。	100分 講義ノートを元に木質製品の塗装の特徴を理解する。
第9回	木製品の仕様と積算(1) 木製製品の製作に関する仕様書、積算書の作成	番匠谷 薫	100分 木製製品を作るために必要な図面、JASなどを図書館などから文献を準備し、理解しておく。	100分 仕様書の内容を確認し、自分で仕様書を作成できるようにしておく。
第10回	木製品の仕様と積算(2) 仕様書、積算書の作成演習	番匠谷 薫	100分 木質製品製作における部材の数量を算出できるように理解しておく。	100分 課題として出された仕様書、積算書を完成させる。
第11回	和室造作の計画 和室造作における木質部材の計画と仕様	番匠谷 薫	100分 わが国の伝統的な和室に関して(床の間など)その特徴、部材名称を調べておく。和室造作をスケッチする。	100分 和室造作を計画、制作できるように仕様・積算演習を行う。
第12回	木階段の計画と仕様	番匠谷 薫・部外講師	100分 木質階段について名称を調べ、寸法などを実測する。木質階段をスケッチする。	100分 木質階段を計画、制作できるように仕様・積算演習を行う。
第13回	木製生活用品(1) 生活用品における木質材料	番匠谷 薫	100分 身近にある木製生活用品をリストアップし、スケッチする。	100分 簡単な木製生活用品の仕様・積算演習を行う。
第14回	木製生活用品(2) 生活用品制作における計画と仕様 伝統的木製生活用品	番匠谷 薫・部外講師	100分 伝統的な木製生活用品について文献をもとに調査する。	100分 最も気に入った木製生活用品をスケッチする。

〔到達目標, 比率〕
 [DP] [到達目標] [比率]
 D(3) 建築、木質製品の設計・生産計画を通して、自然環境・都市環境との持続的共生を理解し、地球環境を含んだグローバルな課題について、理性的かつ論理的に思考し、判断することができる。 20%
 D(6) 自ら構想した空間や木質製品を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。 60%
 D(7) 生活のあらゆることに関心を持ち、種々の課題に対して創造的な解決を導き出すため、自主的、継続的、計画的に行動できる。 20%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
 授業への積極性 10%
 予習課題の提出 50%
 演習課題・レポートの提出 40%

〔評価及び評価基準〕 @:木質製品の環境との関わりを理解するとともに、自ら構想した空間や木質製品を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。
 A:自ら構想した空間や木質製品を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。
 B:自ら構想した空間や木質製品を図面や仕様書などに反映でき、他者に伝えることができる。
 C:自ら構想した空間や木質製品を図面や仕様書などに反映できる。
 D:未到達

ト等)の学生へのフ
ィードバック方法]

[科目 GPA 及び
評価分布] この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

[教科書] [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
特になし

[参考書] [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
日本農林規格 木材関連

[能動的学習の
授業手法] [手法] [実施授業回等]
グループワーク 9回目、10回目

[授業改善点など] 前年度開講なし

[関連する資格]

[備考]

[参考 URL]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	建築計画	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	PDD341S 特別建築デザイン実習			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	前田 圭介,石田 敏明,保坂 猛						
研究室	N3-424-2	メールアドレス	k.maeda.ka@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 本実習は、3年間学んできた建築デザインの知識を建築設計作品へ統合する力を養うことを目的とする。具体的には、より実践的であり社会的な要請をテーマとした課題に取り組むことにより、各自がテーマ(社会的・建築的問題)を発見し、その問題の解決を建築デザインの制作プロセスのなかで行うことができるようになる。また作品制作をとおして、第一線で活躍する専門家からの薫陶を得ることを目的とする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP4(関心・意欲・態度) D(8) 技術者としての高い倫理観と責任観をもって行動でき、課題解決に向けた取組みと結果を積極的に社会へ発信できる。
DP3(技能・表現) D(6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。

〔履修条件〕 「卒業研究(設計)」に向けて設計について総合的理解を高めるための科目であるため、「住居デザイン実習A.B」「建築デザイン実習A.B」「デザインスタジオ」と継続的に履修することが望ましい。

〔キーワード〕 空間 光 採光 展示作品 動線 グルーピング 遊び 学習

〔履修上の留意事項〕 講義日程を変更する場合がありますので、掲示に注意すること。
単位取得には、全出席が基本である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス、第1課題の説明と質疑応答、教員によるスライド講演会	遠藤、保坂	0分	100分 教員の作品事例研究
第2回	エスキース	遠藤、保坂	100分 課題のエスキース	0分
第3回	エスキース	遠藤、保坂	100分 課題のエスキース	0分
第4回	中間発表会	遠藤、保坂	100分 課題のエスキースを行う、模型製作、中間発表準備	0分
第5回	エスキースとドローイング	遠藤、保坂	0分	100分 課題のドローイング
第6回	ドローイング、模型制作	遠藤、保坂	0分	100分 課題の模型製作
第7回	第1課題作品提出、講評会	遠藤、保坂	100分 課題のドローイング、模型製作完成	0分
第8回	第2課題の説明と質疑応答、教員によるスライド講演会	前田、石田	0分	100分 教員の作品研究、敷地調査
第9回	エスキース	前田、石田	0分	100分 課題のエスキース
第10回	エスキース	前田、石田	0分	100分 課題のエスキース、模型製作、中間発表準備
第11回	一日課題	前田、石田	0分	100分 課題のエスキース
第12回	中間発表会	前田、石田	0分	100分 課題のドローイング
第13回	エスキースとドローイング 模型制作	前田、石田	0分	100分 課題のドローイング、模型製作
第14回	第2課題作品提出、講評会	前田、石田	100分 課題のドローイング 模型製作	0分

〔到達目標,比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、それを伝えるために必要な幅広い教養と言語力、プレゼンテーション能力を有している。 50%
D(8) 技術者としての高い倫理観と責任観を持った行動ができ、種々の問題解決において、その取り組みと結果を積極的に社会へ発信できる。 50%

〔評価種別,比率〕 [評価種別] [比率]
第1課題 50%
第2課題 40%
一日課題 10%

〔評価及び評価基準〕 @:課題に対する理解・表現・発表が特に優れている。
A:課題に対する理解・表現・発表が優れている。
B:課題に対する理解・表現・発表ができる。
C:課題に対する基礎的な理解・表現・発表ができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕 特定せず、あらゆる図書を参照すること	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
〔参考書〕	〔タイトル〕 コンパクト設計資料集 第3版	〔著者名〕 日本建築学会	〔発行所〕 丸善	〔出版年〕 2005	〔ISBN〕 978-4621075098
〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕 Project-Based Learning その他	〔実施授業回等〕 14回 チーム・ティーチング 14回			

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 建築士試験受験資格(選択)

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	建築計画	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	PDP341S 都市・コミュニティ計画			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	平田 欽也						
研究室	N3-214	メールアドレス	k.hirata.xi@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 本科目では、都市計画・地域計画・コミュニティ計画を統合的に学ぶ。人間の生活する場としての都市や地域の構造をどの様に捉えるのかを学び、計画手法を学修する。具体的には、教科書に加えて視覚資料を用い、都市計画の実例を示しながら、その特性や課題を学ぶ。また、まちづくりの手法から地域とコミュニティの関係性を学修する。さらに、実在のまちにおけるコミュニティの現状を議論し、課題点を共有する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(1) 人々の心豊かな暮らしに対する幅広い教養と工学的知識を共に深め、この教養と知識をもって実践的な技術としての建築デザインを理解することができる。
DP3(技能・表現) D(5) 豊かな居住環境の構想を多様な手段によって表現し、それにより自分の考えを相手に明確に伝えることができる。

〔履修条件〕 本科目は「計画・設計」分野の高次レベル科目であるため、計画・設計系科目の履修が基本となる。

〔キーワード〕 都市計画、地区計画、土地利用、住民主体、まちづくり、まちなみ形成

〔履修上の留意事項〕 授業ノートを作成すること。
アクティブラーニングによって授業を進める。
毎回予習課題を出すので時間をかけて取り組みこと。
関連資料を配付するので各自ファイリングすること。
単位取得には、全出席が基本である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	はじめに 受講ガイダンス	天満類子	100分 新聞等を読み、社会における都市の課題に関心を持つ。	100分 配布資料を見返す。
第2回	都市計画とまちづくり	天満類子	100分 都市計画とまちづくりの違いを調べる。	100分 都市計画の特徴をまとめる。
第3回	都市計画史	天満類子	100分 古代の都市計画を調べる。	100分 近代の都市計画をまとめる。
第4回	都市計画の思想	天満類子	100分 都市計画の思想を調べ列挙する。	100分 授業で挙げた思想から一つ選び詳細に調べまとめる。
第5回	現代における都市計画の仕組み(1)法定都市計画・マスタープラン	天満類子	100分 法定都市計画を調べる。	100分 マスタープランの事例を調べまとめる。
第6回	現代における都市計画の仕組み(2)事業・地区計画	天満類子	100分 再開発事業の手順を調べる。	100分 地区計画についてまとめる。
第7回	多様なまちづくり(1)市街地・景観・防災	天満類子	100分 中心市街地活性化における課題をまとめる。	100分 景観まちづくりの特徴をまとめる。
第8回	多様なまちづくり(2)参加のデザイン	天満類子	100分 ワークショップ手法を調べておく。	100分 ガバナンスとは何かまとめる。
第9回	まちづくりとコミュニティ形成(1)	天満類子	100分 まちづくり事例を収集する。	100分 まちづくり事例の特徴を考察する。
第10回	まちづくりとコミュニティ形成(2) PBL:プロジェクトレビュー	天満類子	100分 まちづくり事例のレビューをする。	100分 グループ形成を行う。
第11回	まちづくりとコミュニティ形成(3) PBL:プロジェクトの社会的意義	天満類子	100分 プロジェクトの社会的意義について情報収集をする。	100分 プロジェクトの社会的意義を考察しまとめる。
第12回	まちづくりとコミュニティ形成(4) PBL:担い手とコミュニティ	天満類子	100分 プロジェクトの担い手・コミュニティについて情報収集をする。	100分 プロジェクトの担い手・コミュニティについて考察しまとめる。
第13回	まちづくりとコミュニティ形成(5) PBL:プロジェクトの持続可能性	天満類子	100分 プロジェクトの持続可能性について情報を収集する。	100分 プロジェクトの持続可能性について考察しまとめる。
第14回	まとめ	天満類子	100分 他グループの提案に目を通す。	100分 授業ノートを見返し、復習する。

〔到達目標, 比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(1) 人々の心豊かな暮らしに対する幅広い教養と工学的知識を共に深め、この教養と知識をもって実践的な技術としての建築デザインを理解することができる。 50%
D(5) 豊かな居住環境の構想を多様な手段によって表現し、それにより自分の考えを相手に明確に伝えることができる。 50%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
レポート 50%
授業内の課題 50%

〔評価及び評価基準〕 @:都市・コミュニティ計画にかかわる理論のすべて(90%以上)を理解し、説明できる。
A:都市・コミュニティ計画にかかわる理論の大部分(80%以上90%未満)を理解し、説明できる。
B:都市・コミュニティ計画にかかわる理論の一部(70%以上80%未満)を理解し、説明できる。
C:都市・コミュニティ計画にかかわる理論の一部(60%以上70%未満)を説明できる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕 資料を配布する	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
〔参考書〕	〔タイトル〕 都市計画とまちづくりがわかる本	〔著者名〕 伊藤雅春ほか	〔発行所〕 彰国社	〔出版年〕 2015	〔ISBN〕 978-4-395-00902-2
〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕 ミニッツ・ペーパー Think, Pair & Share Project-Based Learning プレゼンテーション KJ法	〔実施授業回等〕 第2回～第8回に実施する 不定期に実施する 第9回～第14回に実施する 第10回～第14回に実施する 第10回に実施する			

〔授業改善点など〕 アクティブラーニングを実施する

〔関連する資格〕 建築士試験受験資格(選択)

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	建築構造・維持管理	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	SDP341S 建築維持管理			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	杉田 洋						
研究室	N3-420	メールアドレス	h.sugita.b3@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 施設管理に携わる建築技術者として、企画設計・建設・運用・解体再利用といった段階におけるコスト管理や環境対策にかかわる建築経営を行うための基本的知識と社会的責任について理解できるようになる。また、良好な社会資産として建物をストックしていくための計画的な維持管理のあり方についても理解する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(2) 数学、物理及び自然科学などの基礎的な教養知識を幅広く身に付け、建築学の学問体系及び各領域の基礎・基本を理解することができる。

〔履修条件〕 本科目は「構造・生産・維持管理」分野の高次レベル科目であるため、同分野科目の履修が基本となる。

〔キーワード〕 ライフサイクルマネジメント コストマネジメント 品質管理

〔履修上の留意事項〕 毎回予習課題を出すので時間をかけて取り組みこと。
授業ノートを作成すること。
ノートPCを持参する。
指定のURLから視覚資料を入手する。
関連資料を配付するので各自ファイリングすること。
単位取得には、全出席が基本である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	いま、なぜ維持管理なのか？	杉田洋	100分 シラバスを確認する。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第2回	わが国における建築生産の歴史	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第3回	建築のライフサイクルを考える	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第4回	維持管理計画について検討してみる	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第5回	劣化と耐用年数について	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第6回	維持管理における品質管理の考え方	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第7回	ライフサイクルマネジメントとは	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第8回	ライフサイクルコストについて	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第9回	ファシリティマネジメントについて①	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第10回	ファシリティマネジメントについて②	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第11回	まとめ	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第12回	維持管理ビジネスを思考する①	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第13回	維持管理ビジネスを思考する②	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。
第14回	維持管理ビジネスを思考する③	杉田洋	100分 予習課題に取り組む。	100分 授業内容についてノートに要約するなどして十分に復習する。

〔到達目標, 比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(2) 高度に発達した技術社会のなかで、建築デザイン分野における課題の解決に向けて、高い倫理観に基づき思考し、適切な判断を行うことができる。 100%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
期末テスト 60%
小テストやレポート 40%

〔評価及び評価基準〕 @: 計画的な維持管理のあり方について十分理解しており、維持管理に関する自身の発想を表現することができる。
A: 計画的な維持管理のあり方について理解しており、維持管理に関する自身の発想を表現することができる。
B: 計画的な維持管理のあり方について概ね理解しており、維持管理に関する自身の発想を表現することができる。
C: 維持管理に関する自身の発想を表現することができる。
D: 未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
プリント配布

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
Project-Based Learning 15

〔授業改善点など〕 学生の発表時間を十分に設ける

〔関連する資格〕 建築士試験受験資格(選択)

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI201J 教育実習指導			履修区分	自由	単位数	1
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「教育実習指導」は、本学で開講している「教育実習」と密接不可分の関係のものとして位置づけており、教育実習を効果的に行うための事前指導と事後指導から成り立っている。大学において修得した教科や教職に関する専門的な知識や技術を基に、教科と教職科目との統合や、教職科目相互間を統合させることにより、教育を行う上での総合的な知見を得るとともに、履修カルテを用いて、教育理論と教育実践との密接な関連を図り、自己評価をすることにより、教職に係る実践的力量的基礎を形成する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP2(思考・判断)	D(3)	—
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
	DP1(知識・理解)	D(1)	—

〔履修条件〕 3学年までの教員の免許状取得のための必修科目はすべて受講しておくこと。

〔キーワード〕 教育力 教職 授業力

〔履修上の留意事項〕 「教育実習」を履修する者は必ず履修すること。
この授業は、事前指導は4月・5月、事後指導は11月に集中講義にて行う。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習の意義・目的・内容	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の意義・目的・内容について調べる。	100分 教育実習の意義・目的・内容についてまとめる。
第2回	教育実習生の勤務上の心得	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習生の勤務上の心得について調べる。	100分 教育実習生の勤務上の心得についてまとめる。
第3回	教育実習の心構え	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の心構えについて調べる。	100分 教育実習の心構えについてまとめる。
第4回	教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方について調べる。	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方についてまとめる。
第5回	学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)について調べる。	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)についてまとめる。
第6回	学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)について調べる。	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)についてまとめる。
第7回	特別活動と生徒指導の全体計画について	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 特別活動と生徒指導の全体計画について調べる。	100分 特別活動と生徒指導の全体計画についてまとめる。
第8回	教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)について調べる。	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)についてまとめる。
第9回	教材研究、学習指導案の作成	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教材研究、学習指導案の作成について調べる。	100分 教材研究、学習指導案の作成についてまとめる。
第10回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)についてまとめる。
第11回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)についてまとめる。
第12回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)についてまとめる。
第13回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)についてまとめる。
第14回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」) 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題に関する討論、履修カルテを用いた振り返りとまとめ	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)について調べる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)についてまとめる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題についてまとめる。

〔到達目標, 比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(1)	教育実習を行うにあたり、教育実習生の心得や留意点を把握・理解するとともに、教師の職務内容を理解する。	30%
	D(3)	教材研究の方法や学習指導案の作成の基礎を理解し、併せて授業実習の方法と内容に関する知識や技術を修得する。	30%
	D(8)	履修カルテによる振り返りを通して、教育実習の成果と課題をまとめるとともに、教師の職務を認識し、教職の意義を理解する。	40%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	レポート	20%
	授業中の課題	30%
	模擬授業の指導案	20%
	模擬授業の教育技術、指導態度	30%

〔評価及び評価基準〕 @:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてすべて説明することができるとともに、とくに優れた模擬授業ができる。
A:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてほぼ説明することができるのと同時に、優れた模擬授業ができる。
B:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてある程度説明することができるのと同時に、基本的な模擬授業ができる。
C:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術について一部説明することができるのと同時に、最低限の模擬授業ができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

[教科書]	[タイトル] 高等学校学習指導要領 「教育実習ガイド」テキスト 教育実習履修簿 工業・理科・情報に関する教科書	[著者名] 文部科学省 竹野英敏	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[参考書]	[タイトル] 各教科学習指導要領解説	[著者名] 文部科学省	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[能動的学習の 授業手法]	[手法] ロールプレイング Project-Based Learning	[実施授業回等] 第9回～第12回 第9回～第14回			
[授業改善点など]					
[関連する資格]	高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業) 中学校教諭一種免許状(理科)				
[備考]					
[参考URL]					

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI204J 教育実習(高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「教育実習(高)」は、実際の学校教育現場で実習校の指導教員等の指導・助言を得て、教育の実体験を通して教育に関する理解を深めるとともに、教員になるための基礎的能力・技術や態度を身に付ける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP2(思考・判断) D(4) -
 DP3(技能・表現) D(6) -
 DP4(関心・意欲・態度) D(8) -

〔履修条件〕 3年次までに教育職員免許法等に定められた本学で開講されている所定の科目・教科に関する科目・教職に関する科目の単位を修得するとともに、4年次において「教育実習指導」の事前指導を受けている者が、「教育実習」を履修することができる。

〔キーワード〕 授業力 教職 学習指導 実践力

〔履修上の留意事項〕 教育実習校の指導に従うこと。
 「教育実習(高)」については、高等学校の免許状のみを取得しようとする者が履修することになる。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第2回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第3回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第4回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第5回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第6回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第7回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第8回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第9回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第10回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第11回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第12回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第13回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第14回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理

〔到達目標, 比率〕
 [DP] [到達目標] [比率]
 D(4) 学校教育の実際に関して、各種体験を通して体得する。 30%
 D(6) 大学において修得した所定の科目、教科に関する科目、教職に関する科目を基礎に実践的指導力を養う。 30%
 D(8) 教員の役割を経験に基づき認識し使命感を深めるとともに、教員としての自己の能力や適性について自覚する。 40%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
 教育実習履修簿 50%
 教育実習校評価 50%

〔評価及び評価基準〕 @:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 A:おおよそ、教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 B:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、6割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 C:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、5割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
 教育実習の手引き 竹野英敏

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
 ロールプレイング 第1回～第14回

〔授業改善点など〕

[関 連 す る 資 格] 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

[備 考]

[参 考 U R L]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	TET402J 教職実践演習(中・高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 教科に関する科目に加え、教職に関する科目を学び、かつ教育実習を経験した学生に対して、学校現場の教育活動に対応した実践的な教育能力の習得する。そのために、授業は教職論、学習指導、生徒指導、学級経営、組織・協働の5領域について、演習(グループ討議、現場授業観察、模擬授業・実習、ロールプレイ等)を主体に実施し、教員に期待される資質・能力の向上とその理解をする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP2(思考・判断)	D(3)	—
	DP3(技能・表現)	D(5)	—
	DP3(技能・表現)	D(6)	—
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
	DP2(思考・判断)	D(4)	—

〔履修条件〕 教員免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕 教職 模擬授業 授業観察

〔履修上の留意事項〕 授業は原則として教職担当専任教員で担当し、チームティーチング等の連携・協力体制により行う。併せて、授業の一部においては、専門領域の学識を生かす協力体制を教科に関する科目担当専任教員の参画を得て構築するとともに、現職の教員、教育委員会等の指導主事等を招聘し、教育現場の実践に即した講義・演習を実施する。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	全体オリエンテーション他(教職実践演習のねらい・基本方針・指導内容等:講義と個別活動)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教職実践演習について調べる。	100分 教職実践演習についてまとめる。
第2回	望ましい教員像(教育実習での課題の確認と解決について:グループ考察、発表、全体討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育実習での課題の確認と解決について調べる。	100分 教育実習での課題の確認と解決についてまとめる。
第3回	フィールドワーク準備(第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組み:グループ考察、グループ討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについて調べる。	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについてまとめる。
第4回	フィールドワーク(学校現場における教育活動観察:各テーマに対する実践的取り組みに学びグループ討議・指導)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校現場における教育活動観察について調べる。	100分 学校現場における教育活動観察についてまとめる。
第5回	学校教育の現状について学ぶ(教育委員会等の指導主事等を招聘し講義・質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校教育の現状について調べる。	100分 学校教育の現状についてまとめる。
第6回	本学の地域教育活動から学ぶ(地域教育活動事例の発表、質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 地域教育活動について調べる。	100分 地域教育活動についてまとめる。
第7回	先端技術と教育AV機器の活用法(IT教材活用と注意点、最先端AV機器等)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育AV機器の活用法について調べる。	100分 教育AV機器の活用法についてまとめる。
第8回	教材研究と指導案(発問・板書・学習形態に視点:グループ討議、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 発問・板書・学習形態について調べる。	100分 発問・板書・学習形態についてまとめる。
第9回	模擬授業と授業研究その1(学習過程と発問に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習過程と発問について調べる。	100分 学習過程と発問についてまとめる。
第10回	模擬授業と授業研究その2(学習の流れと板書に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習の流れと板書について調べる。	100分 学習の流れと板書についてまとめる。
第11回	求められる生徒指導力その1(問題行動への対応<事例分析>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 問題行動への対応について調べる。	100分 問題行動への対応についてまとめる。
第12回	求められる生徒指導力その2(不登校生への対応<カウンセリングマインド>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 不登校生への対応について調べる。	100分 不登校生への対応についてまとめる。
第13回	学校経営計画と校務分掌(事例研究<各分掌目標の作成と達成ロードマップ>グループ考察、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校経営計画と校務分掌について調べる。	100分 学校経営計画と校務分掌についてまとめる。
第14回	特別活動の意義と特別活動計画(各種行事)(質疑、グループ討議、全体発表) 実践的な教員となるために(履修カルテを用いた振り返りを通して、望ましい教員像具現化の自己課題:課題発表、グループ討議、レポート)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員について調べる。	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員についてまとめる。

〔到達目標,比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(3)	教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることを理解する。	20%
	D(4)	公平で受容的な態度で生徒に接することができ、信頼感に基づいた規律ある学級経営を行うことを理解する。	20%
	D(5)	授業を行う上での基本的な指導技術力(発問、板書、話し方等)を身に付ける。また、生徒の学習状況に応じた授業計画や学習形態を工夫することを理解する。	20%
	D(6)	履修カルテを用いた振り返りを通して、教職に係る実践的力を自己評価する。	20%
	D(8)	教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢を身に付ける。	20%

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	レポート	25%
	小課題	25%
	発表内容	25%
	ディスカッション	25%

〔評価及び評価基準〕 @:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
A:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、おおよそ基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
B:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、6割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
C:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、5割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
	高等学校学習指導要領解説	文部科学省	文部科学省		
	教職カルテ		広島工業大学		
	適宜資料を配付する。				

〔参考書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	教育実習完全ガイド		ミネルヴァ書房		

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	ロールプレイング	第9回～第12回
	Think,Pair & Share	第2回～第4回, 第8回, 第13回～第14回

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

中学校教諭一種免許状(理科)

[備 考]

[参 考 U R L]